

試験研究（事前）評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所

所管グループ 業務グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	2-3- ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	結核・感染症対策	VNTR分析法を取り入れた福島県内の結核菌の分子疫学的調査研究	結核菌のRFLP分析およびVNTR分析を実施し、菌の遺伝子情報のデータベースを充実させ、県内の結核の感染経路を解明すること(分子疫学的調査)により結核対策に資する。	県内医療機関の協力を得て結核菌株の提供を受け、RFLP分析およびVNTR分析を実施し、コンピューターシステムを用いて遺伝子解析を行う。	H20	H22	A	結核菌株のデータベースを充実させ、分子疫学的解析をすることにより、科学的に根拠が付与された結核対策の立案が可能となる。	結核という今なお解決していない問題に対し、最新の技法を用いて地域の結核対策に資していく点がすぐれている。
2	2-3- 生活衛生等の確保(食品等の安全性の確保)	食品等の安全性の確保	LC/MSによる農産物中残留農薬一斉試験法の検討	農産物中残留農薬の検査項目の増加を図り、食の安全確保を図る。	当所LC/MSによる農産物中農薬一斉試験法の妥当性を評価するため、代表作物への添加回収試験等を実施し、検査項目の充実を図る。	H20	H21	B	残留農薬の検査項目の増加を図ることは食の安全確保の強化に寄与する。	食の安全・安心に関わる重要な課題であるので、早急に進める必要がある。
3	2-5- 生活用水の確保と上水道の整備	安全な飲料水の供給	県内主要河川のクリプトスポリジウム汚染実態調査	県内の水道水源である河川上流域のクリプトスポリジウムによる汚染状況を把握することにより、水道水源への汚染経路及び実態を解明し、水道行政に寄与するとともに高度な技術を必要とする検査法の技術を確立する。	県内主要河川のうち水道水源となっている河川の上流域について、「水道における指標菌及びクリプトスポリジウム等の検査方法について(H19.3.30付け健水発第0330006号厚生労働省健康局水道課長通知。(以下「通知法」とする)による実態調査を行うとともに通知法に基づく技術の確立及び向上を目指す。	H20	H21	B	水道水源の上流域のクリプトスポリジウム検査を行うことにより、汚染経路及びその実態を把握し、水道行政に反映させることができる。	厚生労働省通知による水源の検査にとどまらず、上流域についても検査していくことは意欲的な試みである。